

平成25年度 学校経営計画書

岡山県立津山工業高等学校

校訓 至誠貫行「清い心で粘り強くやりぬく」

I 本校のミッション（使命、存在意義）

本校の使命は、「創造性に富み、社会の変化に主体的に対応できる人」「社会規範を尊重し、心身ともに健康でたくましい人」「心豊かで郷土を愛する心を持ち、地域の人々に信頼される人」の育成に努めることである。

本校の存在意義は、地域で育った生徒を地域に貢献できる社会人として送り出すことによって、保護者や地域の人々の信頼と期待に応えることである。

II ミッションの追求を通じて実現しようとする本校のビジョン（将来像、目指す姿）

①「思いやりのものづくり」、「環境に配慮したものづくり」を展開し、地域とともに歩み、地域から信頼される学校、生徒と保護者が誇りに思える学校を目指す。

②挨拶が飛び交う学校

III 平成25年度の具体的な学校経営目標・計画

1 社会人を育てる（キャリア教育の充実・職業人としての倫理観・豊かな人間性を育てる）

①キャリア教育の充実

- 1) キャリア教育の体系的指導体制の周知確認を図り、実践する。（指導教諭、全職員）
- 2) 生徒の育つ過程を図式化によって確認し、全ての教育活動と連動する。（主幹教諭・全職員）
- 3) 進路情報のデータベース化を図り、利用方法の研修会を開催する。（進路課）

②職業人としての倫理観

- 1) (5S運動、校内美化) 年間の清掃点検満点クラスが90%以上となることを目指す。（厚生課）
- 2) (基本的な生活習慣の確立) 欠席率、遅刻率が昨年度より減少することを目指す。（学年団）
- 3) (社会性、公共心の育成) 生徒指導件数の減少を目指す。（生徒課）
- 4) (公共心を育む) 授業前後はもちろん、いつも気持ちよい挨拶をする。させる。（生徒課）
- 5) (命を守る) 命を大切にする教育の徹底を図る。（生徒課）

③豊かな人間性

- 1) 教育相談体制の充実と特別支援教育体制の周知と有効活用を図る。（相談課）
- 2) 生徒会執行部が率先することによって、委員会の具体的な自主活動を1件は実施する。（生徒課）
- 3) 全クラス、全ての部活動で目標を設定して一覧表にまとめ、実現に向けて取り組む。（生徒課）

2 専門力を育てる（確かな学力の定着・スペシャリストの育成・環境に配慮したものづくり）

①思考力・表現力・問題解決能力の育成による、確かな学力の定着

- 1) 安全で基礎・基本を大切にした授業に取り組む。（全職員）
- 2) 具体的な目標をひとり一項目掲げて授業改善に取り組む（全職員）
- 3) 教育相談、特別支援教育の視点から、人間関係づくりに基づく授業改善の提案（相談課）

②未来のスペシャリストを育成する

- 1) 魅力ある専門科づくりを目指し、具体的な指標を掲げて取り組む（専門科）
- 2) 『スペシャリストへの道』を活用して資格検定合格実績をあげる（担任、専門科）

③環境に配慮した活動・生活ができる生徒を育てる

- 1) 環境に配慮した学習内容を工夫して校内研修会を開催する。（指導教諭、全職員）
- 2) 学校生活すべてに於いて環境教育を展開する。（指導教諭、全職員）

3 開かれた学校づくり（地域・家庭との連携、地域の教育力）

①出かける活動で地域・家庭との連携を図る

- 1) 出前授業、津工フェアの内容充実を図る。（専門科）

②知らせる活動で地域・家庭との連携を図る

- 1) ホームページの計画的な更新（教務課）
- 2) 課、科、学年、クラス通信の発行計画を立てて、地域や保護者に情報提供する。（全職員）
- 3) 年度はじめに個人面談、三者面談の目的と内容も含めた年間計画を立てる。（学年団）

③来てもらう活動で地域・家庭との連携を図る

- 1) 学校公開、授業公開を充実させ、公開授業見学者数を増加させる。（教務課）
- 2) P T A総会出席者数の増加方法を企画して実施する。（教務課）
- 3) 地区別説明会、進路説明会、中学校訪問の充実を図る。（教務課）

④地域の教育力を活用する。地域に貢献する。

- 1) 地域企業と関係を深めてインターンシップ参加生徒増や、社会人講師の招聘をすすめる。（専門科）
- 2) 大学や自治体との連携を進める。（専門科）

校訓意識

至誠とは、「とても誠実なこと。また、その心」のことをいう。すなわち、「自分だけの利益や欲求を加えることなく、偽りや飾りのない清い心で」という意味である。私利私欲を求めない志は「社会のために」と理解できる。

貫行とは、「貫いて、やりぬく」ことをいう。即ち、「惑うことなく一筋に、粘り強く取り組み、最後までやりぬく」という意味である。以上より、至誠貫行とは「清い心で粘り強くやりぬく」ことであり、「社会のために貢献する」ことに他ならない。